

(議長)

日程第4、一般質問を行います。

今定例会の一般質問は、お手元に配布のとおり、5名の議員から通告がありました。通告順に従って、順次これを許可致します。

まず、室井議員の発言を許可致します。

(室井議員)

はい。

(議長)

室井議員

「室井議員」

私は今回2点について質問させて頂きます。

新しい道の駅仮称かもめ島について2点に絞り、一般質問を行います。

最初に新しい道の駅の優位性と機能について、私の考え方を申し上げますので、明快な答弁を求めます。

私は、直近では昨年6月の第2回定例会において、国道からかもめ島に至る、交差点改良事業をラウンドアバウト方式へ計画されていることについて、江差町の関わりや国土交通省に対する要望など、また開陽丸記念館本体の改修計画の方向性などについて伺っております。

それは、どちらも新しく出来る道の駅のランドマークとしての機能性が高いと判断されたからであります。

新しい道の駅の建設は他の道の駅には例の少ない立地条件にあり、すぐそばには海があり、歴史を楽しめる散策路や、自然景観など優れた素材に恵まれており、アウトドア的要素と組み合わせした活用方法を検討されるなど、更なるグレードアップに繋がる可能性があると、あり、大きいと考えます。

防災対策は、日常を通じた取り組みを最優先され、かもめ島と道の駅の連携を今後しっかりと検討する必要が高いと考えます。その対する考え方を求めたいと思います。

新しい道の駅は、かもめ島周辺の整備構想の中核施設として機能を果たさなければならぬので、その決意を再度求めたいと思います。

一つの箱物のみに固執せず、周辺の活用策も検討され、多様性のある空間を作ることも行政の大きな責任と仕事であると考えるわけであります。

かもめ島という歴史と、景観に優れたソーシャルランドスケープを最大限活用する道の駅が誕生する可能性が大いにあります。

汗をかく覚悟なしで夢を語るのは無謀です。江差に対し、強い思いを大切にし、前向き思考で全力を挙げて取り組みをしなければなりません。

道の駅が地区周辺の活性化を促進させるためには、次の手を今から考えておく必要があると考えます。

まちづくりには大きな時間が掛かりますが、それで終わりという結論はありません。次から次へ課題が発生するのは当たり前です。今、この時点でかもめ島と向き合う仕事が出来る喜びを持って頂きたいと思いますので、素直な答弁を求めたいと思います。以上。

「打越議員」

素直な答弁、頼みますよ。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

室井議員の1問目。新しい道の駅仮称かもめ島についてのご質問にお答えを致します。

新しい道の駅に関して、立地環境の優位性、防災対策の考え方、新しい道の駅を中心とした周辺の整備構想、そして、かもめ島周辺地域の活性化に取り組む決意についてのご質問でございました。

まず、新しい道の駅の立地環境の優位性についてでございますが、町と致しましても、室井議員と認識を同じくするものでございます。海やかもめ島といった自然環境、それを生かしたマリンピングやキャンプ、海水浴場などのアウトドア活動、開陽丸記念館や北前船の交易など、江差の歴史を伝える数々の遺構や資源の存在は、道の駅事業を進める上で、これらとうまく連携を図ることで、施設、来館者の増加、道の駅の収益性の向上に繋がるものと考えております。

その上で防災対策について、日常の取り組みの重要性、道の駅とかもめ島の連携の、連携の検討の必要性についてでございますが、災害時の対応、とりわけ津波発生時の対応につきましては、ハード、ソフト両面での対策が必要であると考えております。

道の駅におきましては、津波対策として、屋上デッキを一時避難スペースと想定し、十分な広さの確保を求めております。

あくまで道の駅の利用者の一時避難のスペースとしての確保を求める内容ではございますが、災害発生時には公共施設として必要な災害対応を行うこととし、事業者には町に協力、協力することを求めております。

また、ソフト面では、災害発生時に迅速で的確な避難誘導が図られるよう、避難誘

導マニュアルの作成、避難訓練の実施などを進めて行こう、進めて行く必要があると考えております。

いずれに致しましても、道の駅単体で考えるものではございません。道の駅利用者だけではなく、災害発生時にかもめ島周辺に滞在する方々の避難誘導をどのように進めて行くかについて、町として考え方を整理した上で、道の駅における避難誘導マニュアルの作成、避難訓練の実施などについて、受託事業者と協議をして参りたいと考えておりますのでご理解頂きたいと思います。

次に、新しい道の駅を中心とした周辺の整備構想、かもめ島周辺地域の活性化に取り組む決意についてでございます。

今年3月の定例会における室井議員からの一般質問でもご答弁申し上げているところですが、かもめ島周辺の活性化の取り組みは、単に道の駅だけを整備すればいいというものではございません。

道の駅を拠点施設と位置づけ、機能の充実を図りながら、かもめ島周辺のアクティビティや開陽丸記念館などと相乗効果を発揮出来るよう進めていかなければならぬと考えておりますし、道の駅が江差観光の玄関口として、かもめ島周辺のみならず、上町や下町、いにしえ街道などにも人が周遊する仕組みが、仕組みを作っていくことも重要であると考えております。

道の駅整備事業は、江差町の大きなまちづくりプロジェクトのスタートを切るものと認識しております。かもめ島と向き合い、仕事が出来る喜びを持って頂きたいとのことでございますが、喜びとともに、使命感を持ってしっかりと取り組んで行きたいと考えておりますので、ご理解頂きたいと思います。

「打越議員」

よし、わがった。

「室井議員」

議長。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

はい。町長ですね。答弁、私は理解できます。

1回にね、何でも出来るってもんじやないんです。これをきっかけにですね、次に手をつける、次に手をつけると時間掛かるんです。でも、それをこなして行かなきやいいものは出来ません。そこは職員とですね、力を合わせてですね、取り組んで貰いたいと思います。

2問目、国道からのアプローチ道路について伺います。国道からかもめ島に至る区間は、距離にして約300mと短いが、北前船に夢を託し、最北寄港地の江差へ来られた方々が賑わいを創出された場所であります。

江差追分全国大会には例年、全国各地から多くの方々が日本一を、の夢を求めて参加されております。

もしかして、参加者の中には江差町のご縁のある方がおられたかもしれません。ファブリック道路は、ただ単に誇りを立てまくり、目的に向かうだけの車を最優先の道路のみと考えないで、先祖が北前船で江差に来られたことが判明される地域の名前などを記した標識などを立てるなど、見える化が図るべきと考えます。

道路構造上の問題を有するかもしれません、技術的な意見には、電線の地中化、交差点改良には江差を象徴するモニュメントなどが必要ではないかと考えます。道の駅のみではなく、さらに付加価値を持つためには、周辺整備経過を、計画を考える必要性が大であると考えますが、何か計画など検討されている課題がありましたら、答弁を求めたいと思います。

最後に、私の少ない経験から、目的地に至るアプローチ道路で、非常に心に残り、感銘を受けた施設を紹介致しますので、どう理解し、認識するか、答弁を求めます。

最初は、鹿児島県知覧町の特攻平和会館。

次に香川県琴平町の金毘羅山です。訪問された経験があるならば、感想を含めて答弁を求めます。

知覧町、今年は北海道、特に江差町の、とのご縁が非常に深いと、私は感動を受けました。一つの箱物で来訪者を満足させることはなかなか厳しいと考えますので、国道から西は全て道の駅と思うぐらい大きな発想で、今後、次の施策に向かって頂きたいと思います。心意気を伺いたいと思います。

道の駅が完成されると、その後は事業者任せではいけません。江差町活性化の先駆的な機能を果たす役割があります。しっかり自覚され、行政の立場から早急に取り組んで頂きたいと思いますので、答弁を求めたいと思います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

室井議員の2問目、国道からのアプローチ道路についてのご質問にお答えを致します。室井議員からは前段で、目的地へのアプローチ道路について、北前船で繋がっていた地域の名を残した、記した標識の設置、電線類地中化や交差点付近への江差を象

徵するモニュメントの設置などの具体的な提案も含め、道の駅の付加価値を高める周辺整備計画の必要性や検討している課題等があるのかとのご質問、また、後段では、鹿児島県知覧町の特攻平和会館、香川県琴平町の金比羅山のアプローチ道路、アプローチ道路についての感想とこれらの事例を踏まえて、国道から西は全てかもめ島という思うぐらいの大きな発想で、次の政策に向かうべきとのご質問でございました。

かもめ島、失礼しました、国道からかもめ島に至る区間につきましては、ついでですが、国道228号、かもめ島入口交差点につきましては、ラウンドアバウトによる交差点改良、そこに接続するかもめ島に至る港湾道路につきましては、直轄港湾整備事業として、国において整備が進められる予定となっております。

交差点付近へのモニュメントの設置や電線類地中化といった具体的なご提案がございましたが、江差町と致しましても、函館開発建設部と協議要請を行った経過がございます。ラウンドアバウトの中央地盤を活用したモニュメント等の設置に関してでございますが、モニュメント等を設置するとした場合には、町の負担で実施することとなります。

また、活用する場合はラウンドアバウトの機能、目的を妨げないよう、視認性を確保する観点から、高さは最大でも1.6m以内ということが示されている他、設置範囲も限定され、さらに今後、近隣町で計画されている陸上風力発電施設建設に伴う部材の運搬の際に支障になることも想定されるところでございまして、活用は難しいと判断しているところでございます。

港湾道路における電線類の地中化に関しましては、町としても検討を行った経過がございますが、現時点では地中化の計画を持っていない訳ではございません。今後改めて可能性について探って参りたいと考えております。

室井議員から、鹿児島県知覧町の特攻平和会館、香川県琴平町の金毘羅山の事例のご紹介がありました。

私自身、残念ながら金比羅山に行った経験はございませんが、知覧町の特攻平和会館には2度行った経験があります。駐車場から特攻平和会館に向かう間には桜の木が並び立ち、復元された戦闘機や三角兵舎などもあり、悲惨な戦争の歴史、平和への思いを感じることが出来る空間だったと記憶しております。

かもめ島には北前船交易による江差の繁栄の歴史遺構、江差追分に歌われる情景を思い起こさせる自然景観があります。新しい道の駅整備を契機として、アプローチ道路を含め、そういう歴史や自然を感じられるような、そしてかもめ島周辺に人々をいざなうような空間作りについて、モニュメント等の設置についても一つの手法として引き続き検討して参りたいと考えておりますので、ご理解頂きたいと思います。

「打越議員」

よし、わがつたど。

「室井議員」

議長。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

あの一再質問致します。簡潔にしたいと思います。

アプローチ道路に関連し、南九州と四国を代表する施設を例とし、再質問させてもらいます。先に特攻平和会館について伺いたいと思います。

終戦直前、NHKラジオ番組で江差追分が収録され、後日放送されております。

尺八演奏者は、小樽出身の斎藤さんっていう方と把握しております。

しかし、自分が演奏された江差追分を聞くことなく、終戦直前に南の海に散っていました。特攻平和会館にはその時、演奏に使用された尺八が3本展示されておりました。私が訪問されて10年を経過しますので、その間、展示室のリニューアルも2回行われております。

また、NHKテレビ放送で特攻は、特攻の母と親しまれた鳥濱トメさんなどが紹介されたと伺っております。あの3本の尺八はその後どうなっているだろうかと。

今月5日に知覧町役場へ電話すると、大変親身な対応をして頂きました。学芸員の方から3本の尺八は展示しておりますという回答を頂きました。江差町とのご縁を強く感じております。

今回、計画されている国道の、あの国道の、国道からの道路を単に一つの例として、私は先ほど提案しましたが、かもめ島を含めた全域をソーシャルランドスケープとして整備し、そして皆さんに後世に残していくってもらいたいと思います。

併せて、知覧町とのご縁、これも大切ですので、江差町が少し検討されてもらいたいと思います。

もう1点、すぐ終わります。金毘羅山についてです。

ここには多くの方が訪問されたことがあるかと思います。門前町から785段の石段を上った先に本殿があり、その左側に絵馬堂がありました。私には光輝いて見えました。長い間、この絵馬堂に北前船の絵馬が展示されていたとは、私は本当に感激にあふれました。

それと、本殿に本堂に向かって、右側の両側に石道路がありますけど、右側の石堂の参道の石通りには北海道江差、山荘何とかという刻み込まれた大きな石堂が奉納されておりました。北前船、改めて感激致しました。江差だっていいものはたくさんあります。ファブリッジ道路をどう活用し、見せ場を作るか、そのことも今後、検討してもらいたいと思いますけど、よろしくお願い致します。以上です。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

室井議員からの再質問でございます。

えー、知覧の平和記念会館、或いは金比羅山の事例をもとに、かもめ島のアプローチについての再質問だったかなというふうに思います。

まず1点目の、平和記念会館知覧町でございますけれども、私自身も戦争を経験しない世代の政治家として、様々な観点から平和、或いは戦争に向き合っていかなきやいけないなと思ってきてているところでございます。

その中で、知覧町にも訪れたことがございますし、或いは広島、長崎の原爆のところ、また、沖縄のひめゆりの塔、色んな場面でですね、その平和についてしっかり学ばないといけない、そして、戦争のない世界を目指して行かなきやいけないそういうふうな思いで、そういうところを巡っているところでございます。

先ほど、室井議員から尺八のお話がありましたけれども、大変申し訳ございません、私が巡った時にはですね、少し気づくことが出来ずにですね、その尺八の存在というのが展示されているということを知らなかったというのは非常にこう残念だったなというふうに思います。

その一方で江差町においても、特攻隊員として選出された方がいるということを認識しているところでございます。そういう戦争との繋がり平和への思いというのを、色々な場面で江差町を通じながら感じるそういうことが大事なのかなというふうに思っています。

また、金毘羅山の今のお話もございました。まさにですね、北前船の繋がりというのは江差町、非常にたくさん、各地域とあるんだろうなというふうに思っています。

私も出張などで全国各地を巡らせて頂いた時には、江差町の状況、江差との繋がりというのをですね、各地で感じることが出来る事が多々あります。

例えば、石川県の小松市に行った時にはですね、海岸沿いにある小さな集落に伺ったんですが、ここも北前船の寄港地だったところなんですねけれども、言ったら古い民家の展示施設の奥様ですね、出てきて、江差から来たというふうに伝えると、江差経済新聞というのを見せて頂きました。江差の当時の状況を発行する新聞、中歌町が発行の地域となっていましたけれども、そういうもののを見ましたし、また、広島県尾道市に行った時には尾道、酢の生産が盛んな地域だったわけですけれども、酢の壺が江差町に残っているということが郷土資料館に紹介をされていたところでございます。

そういうことからもですね、江差町との繋がり、全国各地に北前船などを通じてですね、多く存在するんだろうなというふうに思います。

全国からお客様をお迎えした時に、そういう自分の地域、来た地域との繋がりを感じて貰えるような、そういう日本遺産を中心にですね、まちづくりを考えしていく、観光を考えていくということが大事なんではないかなというふうに思っています。

今、室井議員からアプローチ道路に関してご質問頂いておりますけれども、アプローチ道路も含めてそういう繋がりを大切にする、そういう観光振興に取り組んで参りたいと考えておりますのでご理解頂きたいと思います。

「打越議員」

よし、わがったど。

(議長)

よろしいですか。はい。

(議長)

以上で、室井議員の一般質問を終わります。